

第6回 ニッケピュアハート エッセー大賞

<中学の部 大賞>

「夢」

阿部あかり

私は、「将来の夢」についてこれまで深く考えた事はありませんでした。二年生の後半からは、職場体験や三者面談などで、よく将来について聞かれるようになりました。友達に聞いてみると、「人の役に立てる仕事に就きたい」、「自分の能力を生かせる仕事に就きたい。」などと話してくれる人もいれば、「看護師になりたい」、「教師になりたい」と具体的に話してくれる人もいました。一人一人ちゃんとした夢をもっているのです。私は、それを聞いたたび胸がしめつけられました。なぜなら、私にはまだ夢がないからです。そうはいっても、生まれてから今まで、ずっと夢がなかったわけではありません。私にだって、幼稚園の時や小学生の時には夢がありました。それは今考えてみると、とても現実から遠い話で、本気になって考えた事はありませんでした。

ところが、私はこの三月十一日の震災で全壊した父の居酒屋を継ぎたいと思うようになったのです。父の店はとても厳しい状態の中で、無事再開しました。今では社員も皆、来てくださるお客さんに対して、明るく笑顔で接客をしています。父は社長として、皆を明るくしてくれます。そして、家族の大黒柱として、私達を支えてくれます。父は、「お父さんはお客さんの笑顔が見たくてこの仕事を始めたんだよ。おいしかった。また来るね、と笑顔で帰っていく姿が一番の力になるんだ。」と言っていました。私は父のように人の喜びを自分の喜びにできる人を本当に尊敬できると思いました。

震災によって大切な物を失ったり、すごく辛い経験をしました。しかし、この震災を通じて夢をつかむことができました。父のような人の喜びを自分の喜びにできる人、そして人を笑顔にする仕事に就きたいと思います。